

トリプル選挙、一転荒れ模様へ

2023年春 市長・市議・県議選

泉市長が後継擁立と自派市議擁立で議会へ攻勢

2023年4月の統一自治体選挙は明石市でも県議選、市長・市議選の“トリプル選挙”になりますが、これまでにない注目される激しい選挙になりそうです。

4選出馬が確実視されていた泉房穂市長が、9月市議会で「市長問責決議」に絡む市議への暴言から直後に「今限りで市長を辞め、政治家も引退することで責任を取る」と表明するとともに、後継候補を支援し政策を継続できるように市議選にも“自派候補者”を大量に擁立すると宣言したからです。

4年前には選挙を前に“職員への暴言”が報道された直後に辞職、繰り上げ選挙の告示日直前に再出馬を表明し“劇場型”の選挙を展開して圧勝、4月の任期満了選挙は無投票で3選を遂げました。今回は2度目の暴言騒ぎで4選を断念したものの、引退の背景になった自民党真誠会と公明党などの市議会多数派との対決姿勢を露わにし、市長選だけでなく市議選にも候補者を公募して全面的に“参戦”する展開になっています。

第4次「市民マニフェスト」策定へ

公開討論会で市長選の候補者に提案

市長選の候補者はまだ具体的になっていないが、泉市長が擁立する“後継者”に対して市長と全面对決している自・公勢力らが対抗馬を立てるのは必至と見られる。

また、市議選はすでに維新の会が新人6人の公認を発表しており、市長が擁立する新人らに加えて引退する現職の後継者らも含めるとかつてない“乱戦”になり、市議単独選になった前回投票率(36.99%)に比べ大幅に上昇し当選ラインもかなり高くなることが予想される。

市民自治あかしは2011年以来4回目の「市民マニフェスト」(市民がつくる市民の政策)を策定し、市長選候補者に対して提案して公開討論会で意見を聴きます。

市議会はどうあるべきか？

市民と議員の討論集会

1月28日(土) 13:30~16:30

明石市民会館 第1・第2会議室

2021年後半以降の市長と市議会の対立の背景には何があるのか？ 明石市議会は2014年に議会基本条例を制定し「市民に開かれた議会」「市民に対する説明責任を果たす」など本格的な議会改革を進めることを宣言していますが、実態はどうなのか？

現職議員はもちろん市議をめざす市民にも呼びかけ、明石市議会の課題を市民と一緒に討論します。

参加費無料。当日会場へお越しください。

連絡先：市民自治あかし 078-913-1241

市長選と市議選で候補者公開討論会

市民自治あかしは前回に続き、市長選、市議選の告示を前に、それぞれ立候補予定者を招いた「公開討論会」を開催します。

会場の都合上、下記の日程を予定しています。会場はいずれも市民会館中ホールです。

◎市議選挙 立候補予定者公開討論会

3月19日(日) 午後7:00~9:00(予定)

◎市長選挙 立候補予定者公開討論会

3月26日(日) 午後7:00~9:00(予定)

日 時	テーマと内容	会 場
1月28日(土)	市議会はどうあるべきか? 市民と議員の討論集会 in 明石	市民会館第1&2会議室
3月19日(日)	市議会選挙 立候補予定者による公開討論会 19:00~21:00	市民会館 中ホール
3月26日(日)	市長選挙 立候補予定者による公開討論会 19:00~21:00	市民会館 中ホール

泉市政の4年間を市民目線から検証評価

市民マニフェスト検証大会で12項目挙げ討論

泉明石市政についての「市民マニフェスト検証大会」は11月20日、同市長が出席してアスピア明石7階のウイズあかし704号で行いました。2019年4月の市長選挙に際して市民自治あかしが開催した候補者公開討論会で議論した「市民マニフェスト」について、3年半の泉市政を検証評価した12項目をもとに市長と意見交換しました。

12項目の概要は以下の通りです。市長は10月の市議への暴言をめぐって今限りで退任することを表明したばかりですが、すでに次期選挙で自・公を中心とした市議会多数派との対決姿勢を明らかにしていたこともあって、議会多数派との対決色を濃厚にした説明が目立ちました。



11月20日アスピア明石で。HPで当日の録画放映中

市民マニフェスト検証評価12項目 質問の概要

1 自治基本条例の「遵守」について

自治基本条例は「遵守」しなければならない明石市の憲法。市長は「最大限尊重する」と答えている。自治基本条例を遵守した市政運営が行われてきたと認識しているか?

2 市長と職員の信頼関係について

暴言辞職後、職員との信頼関係の構築に努力すると表明したが、制度化や信頼関係は構築されたか? 幹部職員の退任や目まぐるしい人事異動など強権的な姿勢も指摘されたが、職員のモチベーション低下につながっていないか?

3 市議会との関係について

1、2期目は「市議会と議員は市民の代表」と協調関係を強調していたが、なぜ対立が深まったのか? 次期選挙へ向け多数派議員らと対決するような発言も見られるが、市議会の現状や今後のあり方についてどう見ているか?

4 住民投票条例について

三度否決された住民投票条例はどうするのか? 当初は意気込みを感じたが、その後は答申案への対応が二転三転し真意がどこにあるのか判然としない。2回の再提案は形式的に提案しただけではどの疑念もある。どうするのか?

5 子育て支援を基軸とした子ども施策の展開

子ども施策の展開は注目度も高く、明石の評価を高めた。人口と税収増、財政力向上にも寄与し「好循環」を生んでいるが、保育や教育の質向上につながったか? 保育従事者等の待遇改善や子どもの「育ち環境」の向上につながっているのか検証が急務だ。今後は保育所の定員割れ等への対応も課題だ。

6 「社会的弱者」への率先した手厚い支援施策

社会的弱者への手厚い支援、犯罪被害者と更生支援、障害者や旧優生保護法被害者の支援、LGBTQ+SOGIE(すべての人にやさしいまちづくり)は市への注目度を上げたが、施策を定着させていく課題はどうか?

7 地域における「支え合いの社会」実現について

支え合いの仕組み、地域総合支援センターの整備は4年経っても増えていない。活動拠点の拡充やボランティア、人材育成など地域の受け皿強化の支援策が見えない。市民活動支援や基盤整備は空振りになっていないか?

8 財政課題について

財政状況改善の一方、上下水道やゴミ処理、漁港整備などインフラ投資の抑制や削減によるツケ先送りの懸念も指摘される。人口縮小社会の中で、今後は拡大成長志向から持続可能な社会へ向けての政策転換に迫られる。

9 新庁舎建設計画について

市民に説明し広く意見を聴くことが“空手形”になっている。急転直下「現地建設」へ踏み出して以降、基本計画素案の市民説明会とパブコメが行われただけ。専門家や市民を交えた審議機関等の手順が全く行われていない。

10 豊かな水辺環境と食文化を活かしたまちづくり

イベントや広報宣伝に止まり、実態の伴う具体化が見当たらない。豊かな海づくり大会も明石の海と魚の資料館づくりなど後世に残る事業につながっていない。水族館構想も幻に消えた。思いつきでない策定プロセスが必要だ。

11 城下町明石など歴史と文化を活かしたまちづくり

市制100周年、明石城築城400年事業はイベント中心で終わった。明石公園問題で市民と足並みをそろえて「自然豊かな明石公園の多様な価値」へ向けて動いていることは高く評価するが、城下町明石の歴史資料館づくりや古代からの歴史を一堂で紹介する具体的取り組みが欲しい。

12 生物多様性あかし戦略と環境保全施策

生物多様性あかし戦略に基づき自然と人が共生するまち実現に向けた展開は、市街化調整区域の保全、市街化区域内の農地の保全、ため池の埋め立て禁止、貴重な里山である松陰新田の保全など具体的施策が重要だ。新幹線基地や大久保北部丘陵地の開発、ため池売却は真逆の施策展開になっている。